

みる つくる
かたる

2011

VOL.38
(通巻100号)

ART NEWS 千葉県立美術館報

平成 23 年度企画展 **関主税展**
— 夢幻世界を描き続けた日本画家 —

平成23年11月26日(土)～平成24年1月15日(日)

開館時間 9:00～16:30

休館日 月曜日 (1/9は開館し1/10休館)・12/28～1/4

入場料 一般 500円(400円) ()内は20名以上の団体料金

高校・大学生 250円(200円)

中学生以下・65歳以上は無料

※詳しいことはお問い合わせください



《湖畔》
昭和58年
(1983)

せきちから
関主税(大正8(1919)年～平成12(2000)年)は、千葉県長生郡長南町出身の日本画家である。関家は代々医者の家系で、関にも周囲から医者への道へ進むことが期待されていたが、画家への夢が捨てきれず親の反対を押し切り苦勞を重ねて東京美術学校に入学した。美校では、伝統ある日本画に洋画の持つ写実性を取り入れたことで知られる結城素明に師事した。繰り上げ卒業して兵役に就き、4年後に復員して素明の紹介で中村岳陵に師事した。東山魁夷は同門の先輩ということになる。

はじめ岳陵が院展に出品していた関係もあり、関主税の画家としてのスタートは、昭和23年の第33回院展に地元の風景を描いた「埴生の風景」の初入選からであった。その後岳陵が日展に移ったため、関も岳陵一門とともに日展に出展することになり、以後日展が発表の主舞台となった。

岳陵は、歴史画や風景画、都会の風俗を描いた画家と

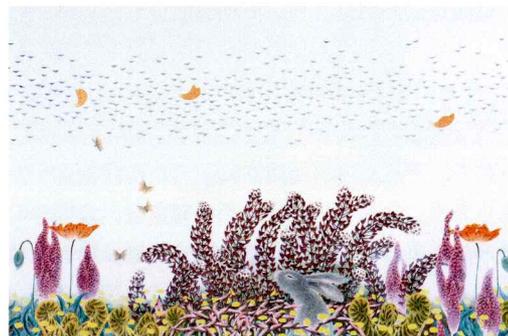
して知られたが、関は花鳥画も描いてはいるものの本領を発揮したのはやはり風景画であった。師の訓えは、「古典を見よ、自然を熟視せよ、自然から学べ」というもので、関は一途に訓えにしたがい写生に明け暮れた。晩年関は、写生地へ何日も足を運び、そのたびに草木を踏みしめるため、写生地まで続く一本の細い道ができるくらい通り詰めたと述べていた。日本画の伝統に現代感覚を生かした清澄新鮮な作品は、写生を尊重し、それによって培われた優れた表現力、作画に対する変わらない姿勢によって生まれたといえよう。

昭和40年代前半や50年代後半の作品に見られるように、関の作品には何気ない花木や野草が風景画の中にクローズアップされしばしば登場し、こうしたことから植物を風景化したというようにも言われるが、植物に対する造詣は深く、その細やかな観察による表現が、関の風景画には重要な部分を占めていると言える。また霧や霽に包まれたような独特の表現も、繊細な詩情を伝えるとともに、奥深い味わいが尽きない。

また、関には故郷千葉をモチーフにした作品が多い。《上総の春》(平成4年)、《安房の春》(平成2年)、《野》(昭和60年、日本芸術院賞受賞)などである。ほのぼのとした動物や鳥、温暖な気候で育つ花は温かみを感じさせ、少年時代を過ごした故郷の想い出と愛情が表現された作品である。

寡作の画家といわれた関は、日展、日春展を除けばグループ展や個展での作品発表は極めて少ない。とは言え自宅画室にはスケッチブックが大量に残され、徹底した写生の果てに数々の心象風景、幻想の世界ともいえる作品が生まれたことがわかる。関主税の没後から11年が過ぎ、この展覧会は初期から晩年までの主要作品を紹介する初めての回顧展となる。

(学芸課長・金田雅成)



《上総の春》
平成4年
(1992)

企画展「関主税展」関連事業

美術講演会

日本中世・近世絵画史の専門家として、様式論の立場から日本絵画史の流れを研究し、多くの著書のある河合正朝氏を講師に招き、親交のあった関主税について伺います。

日時 平成23年12月18日(日) 14時～
会場 千葉県立美術館 講堂 定員200名
演題 「関主税によって祝福された自然」
講師 河合正朝氏(慶応義塾大学名誉教授)
参加方法 申し込みは必要ありません。当日、直接会場までお越し下さい。入場料は無料です。

ワークショップ「日本画の素材～石の色」

石が絵の具に？

日本画の絵の具の秘密を探ってみよう！

石から絵の具を作って描いてみよう！

日時 平成23年11月26日(土) 10時～16時
対象 小学3年生以上 30名 参加費 1000円
参加方法 往復葉書に、ワークショップ名、郵便番号、住所、氏名(複数名の申込可)、電話番号、学校名、学年を記入のうえ、お申込み下さい。定員を超えた場合は抽選となります。
申込締切 11月10日(木)(定員に達しなかった場合など締切日を過ぎても参加できる場合があります。お問い合わせ下さい。)

歌とピアノ三重奏による「日本の名曲～春夏秋冬」

ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉のメンバーとソプラノ歌手佐橋美起さんによる演奏会です。

日時 平成24年1月7日(土) 14時～15時30分
会場 千葉県立美術館 講堂
演奏 佐橋美起・本庄篤子・海老澤洋三・横山歩
内容 歌とピアノ三重奏による「日本の名曲～春夏秋冬」
曲目 「春よ、来い」「少年時代」「ペチカ」ほか
対象 一般 定員200名 入場料 無料
参加方法 往復葉書にミュージアムコンサート希望・希望者氏名(複数名可)、住所、電話番号を明記の上、千葉県立美術館コンサート係まで申し込んで下さい。

申込締切 12月20日(火) 必着。定員を超えた場合は抽選。

ギャラリートーク

関主税展期間中、下記日時に当館学芸員によるギャラリートークを開催します。参加申し込みは不要ですが、会場への入場料が必要となります。当日、直接、関主税展会場へお越し下さい。

開催日時 11月27日/12月4日/12月11日/12月25日
1月8日/1月15日の各日曜日 14時～

1月～3月のアート・コレクション

アート・セレクション「コレクション100」

1月21日(土)～2月26日(日) 第1・2・3・8展示室

本館の2,400点あまりのコレクションより日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画の各分野から、代表的な作家100人の作品を一堂に紹介します。



東山魁夷「春雪」

浅井忠・フォンタネージとバルビゾン派

2月28日(火)～ 第2展示室

浅井忠は佐倉藩出身の日本近代洋画の先駆者です。1876年工部美術学校に入学し、絵画教師として来日したイタリア人画家フォンタネージに油彩画の指導を受け、近代洋画の発展に貢献しました。浅井の作品を中心に、フォンタネージやミレー、コロドーなどのバルビゾン派の作品を紹介いたします。

浅井忠の京都時代と「武士の山狩」

2月28日(火)～4月15日(日) 第1展示室

浅井忠は晩年京都に移住し、洋画の指導や工芸の意匠研究に取り組むなど多方面で活躍しました。その中で、東宮御所(現:迎賓館)の壁面装飾下絵「武士の山狩」の制作にも力を注ぎました。「武士の山狩」の下図と併せて浅井の京都時代の作品を紹介します。



浅井忠「東宮御所壁飾草稿(1)」

絵から聞こえる音

3月3日(土)～4月15日(日) 第3展示室

私たちの世界は光と音に満たされています。このため作者の意図を離れ、多くの作品の画面からは何らかの音を感じ取ることができるのではないのでしょうか。ここでは、音をイメージさせ、今にも耳に聞こえそうな作品を紹介いたします。

千代倉桜舟 いろはにほへと…

3月3日(土)～4月22日(日) 第8展示室

君津市出身で、造形性と思想を込めた近代詩文書の分野を発展させた書家、千代倉桜舟(1912～1999)の大字のかなによるダイナミックないろは歌の作品を紹介いたします。



千代倉桜舟「いろは歌」(部分)

平成 23 年度の教育普及事業から

ミュージアムコンサート

目だけでなく、耳でも芸術をたのしむことを提供しているのが本事業ミュージアムコンサートです。今年度は4月からすでに4回コンサートを開催しました。4月にはアマチュアのシニアアンサンブル、6月には千葉特別支援学校の卒業生がバンド活動をしているハッピーバンド、7月には千葉女子高等学校オーケストラ部の高校生によるサマーコンサート、そして9月には2人の20代の演奏家によるマリンバとヴァイオリンのデュオ。いずれも200名を超える参加の方から好評を得ました。

今後は1月7日(土)、14時より企画展「関主税展」の関連事業として、県民芸術劇場公演「歌とピアノ三重奏による「日本の名曲～春夏秋冬」」と題する室内楽コンサートを開催します。関主税が描き続けた日本の風景をイメージしたコンサートで、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉のメンバーの皆さんとソプラノ歌手佐橋美起さんのすばらしい演奏をお楽しみいただけます。

ワークショップ



ワークショップ
山下清 de
はり絵の世界

子どもたちにとって美術館が楽しい場所であるようにしたいという思いから、おもに小・中学生を対象に創作体験を年数回開催しています。

今年度は、展示会場で手軽にできる「知っ得その場であーと」に42名、気軽に5つの創作体験ができる「ワクワク色いろ・創作あーと」に81名、山下清展の関連ワークショップ「山下清 de はり絵の世界」に66名、博物館実習生が企画した「なつやすみどきどき美術館」に37名が参加しました。とくに、「山下清 de はり絵の世界」には、定員の3倍以上の応募があり、急遽1回の予定を2回に増やして開催しました。また、千葉都市モノレールと連携し、モノレール千葉駅で開催した「モノレール駅で・あーと」には24組28名の小学生親子の参加がありました。さらに、10月15日に開催された「モノレール祭り」には、オリジナルカンパッジ作りなど手軽にできるワークショップを出店しました。以上、それぞれ創作の楽しみを存分に味わっていただける体験となりました。

今後は、11月26日(土)に企画展「関主税展」の関連ワークショップ「日本画の素材～石の色」を実施します。

高校生のためのアートセミナー

夏休みの2日間を利用して、高校生に美術館の仕事を体験してもらおうとインターンシップ(職業体験)・高校生のためのアートセミナーを開催しました。

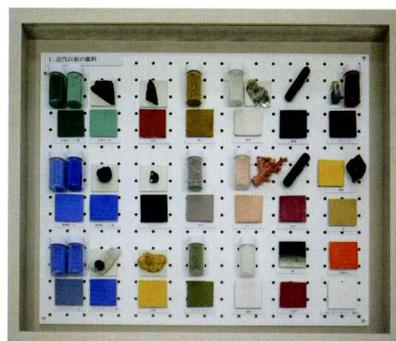
今年度は、5校の県立高校から参加した1年生から3年生までの9名が美術館の展示室で展覧会を開催するという内容で、協議して展示のテーマを探り、複製画45点から展示作品を20余点を選び、作品の取り扱いを学びながら展示をする作業を行いました。また、展示の形がひとつとおそろい整った展示室で、参加した高校生を前に自分の気に入った作品について感想を述べ合う「ギャラリートーク」を行いました。美術館の学芸員の仕事に興味をもつ高校生が、初対面の他校の生徒と協力し作業を進めました。この経験から、参加した生徒が将来の進路を決める際役立つ成果を得たようでした。

美術館講座

平成15年から始めた本講座は、美術館学芸員の仕事を高校生が体験し、美術館収蔵の作品に触れ、生涯にわたり美術を愛好する心を培うことを目的としています。現在は千葉県立幕張総合高等学校と連携して行っており、今年度で4年目となります。

展覧会の開催を最終目標に掲げ、学芸課の主な仕事である展示作品の選定や作家作品の研究、展示説明文の執筆と展示用のパネルの制作など、開催までの作業を順次体験しました。また、普及課の仕事として展覧会を宣伝するチラシ制作や広報活動、ワークショップにスタッフとして参加するなど、学校が休日の土曜日、日曜日、夏休み期間を利用し15日間美術館で活動を行いました。最終日には展示した作品を前に入館者の前で「ギャラリートーク」を行い、研究成果の集大成としました。

学習キットに「日本画素材BOX」が増えました



「日本画素材BOX」より
9つの額のひとつ
「近代以前の顔料」

学校や社会施設でのご利用に即した貸出キットに、新しく日本画素材BOXが増えました。日本画の制作工程や、各種の絵の具類・筆や刷毛といった制作用具、金属の箔を使った表現等を9つの額に仕立てたもの、石から絵の具をつくる体験用具などです。貸し出しのご相談は普及課まで。

地域連携*学校連携

創造海岸アート祭 2011 美浜だれでもアーティスト

本年度、当館の地域連携については「創造海岸アート祭 2011 美浜だれでもアーティスト」というアートプロジェクトを共催したことにより、新しい一步を踏み出したのではないかと感じています。このプロジェクトは、千葉市美浜区の方々を中心とした実行委員会の下、千葉県立美術館とNPO法人ちば地域再生リサーチ、千葉大学教育学部美術科の加藤研究室、小橋研究室、千葉市民ギャラリー・いなげ、千葉市立磯辺第一中学校という、美浜区内はもちろんのこと、その周辺の様々な組織が連携して取り組んだ催しです。具体的な活動内容としては、市民が美浜区にまつわる思い出の写真を持ち寄った写真展や、県立美術館の入館者を巻き込んだ参加型のワークショップ、中学生による展覧会、美浜区のアーティスト達によるアトリエ展覧会などです。昨年様々な地域で、様々なスタイルのアートプロジェクトが開催されておりますが、創造海岸の独創的な面は「あくまで市民が主人公」というコンセプトです。今年が第一回目ですが、今後も市民の生活に根付くようなアートの可能性を探っていくことが出来ればと思います。また、これからは県立美術館もアンテナを高くして、千葉県の各地域から生まれ出てくるアートプロジェクトの情報をキャッチし、可能な限り応援していきたいと考えています。



磯辺第一中学校の生徒による展覧会

学校連携事業

本年度、当館の鑑賞学習分野に「つなげる鑑賞法」という大きな柱を据えることにしました。この「つなげる鑑賞法」は、当館と総合研究大学院大学の奥本博士が、4年前から共同研究中の鑑賞学習メソッドであり、内容は作品同士の「つながり」に着目させることにより、作品だけを鑑賞するのではなく、展覧会全体を楽しめるような視点を獲得できるようなシステムになっています。また、「つなげる鑑賞法」をベースとしたパソコンを使用したWEB教材の開発や、「作品同士のつながりに着目させる」というコンセプトをベースとした複製画を使用した出前授業用プログラムの開発を行っています。特に複製画を使用した出前授業は、今年度の地区教員研修会や授業研究会で利用していただくことができ、多くの先生に知っていただけたことが、大きな成果の一つだと思えます。この複製画を使用した出前授業は、全13点という大量

の複製画を学校に持ち込み、空間をよりアートに染め抜いた状態でを行います。まずは、世界の名画の題名当てクイズを行ってリラックスしたら、5～6人のグループに分かれて、学芸員になったつもりで絵の解説を考えるとというものです。もちろん、授業の最後には自分達のグループで考えた解説を発表します。このプログラムでは、「自分から絵に語りかけてみる」という鑑賞の基本的な姿勢を、ゲームを通して楽しく身につけることが出来ます。

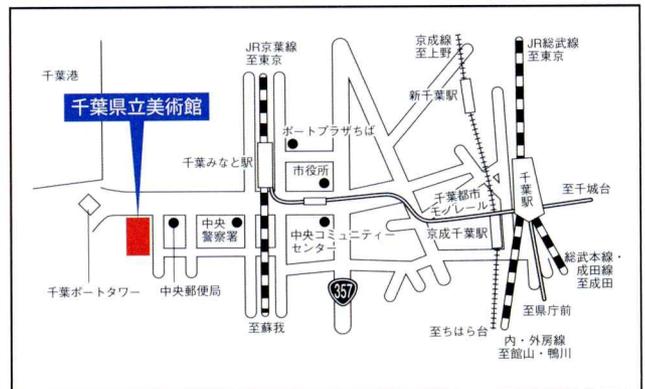


グループで絵についての解説を考える…

また、創作体験の分野では、新たに「日本画素材BOX」のキットを配備し、学校の授業で取り上げられる機会の少ない日本画についての学習を深められる教材を準備しました。このキットには「岩絵の具製作体験セット」が付属しており、絵の具の成り立ちを学習してから岩絵の具を実際に制作してみる体験を行うことができます。

他にも、昨年に引き続き千葉大学との連携事業である、中学校の美術部を対象とした、間伐材とシュロ縄だけで美術館の庭に巨大オブジェを制作するワークショップを開催します。

このように、千葉県立美術館の学校連携事業は、大学や地域の力を結集しながら、教材開発、共同授業プログラムの考案と実施を行い、学校にとって、もう一つの巨大な図工室・美術室のような存在になることができると考えています。



開館時間 午前9時～午後4時30分
 入場料 アート・コレクション展 一般300円 高校・大学生150円
 企画展「関主税」展 一般500円 高校・大学生250円
 中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方(及び介護者1名)は無料
 交通 JR京葉線・千葉都市モノレール「千葉みなと」から徒歩10分
 〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1 Tel:043-242-8311 Fax:043-241-7880
<http://www.chiba-muse.or.jp/ART/>